



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

# 鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

## 6月の行事予定

6月		食	学	調	定
1金		実教育	習	時	期
2土					
3日	英検第1回一次試験				
4月	中間考査(1日目)				
5火	中間考査(2日目) 中高連絡会				
6水	中間考査(3日目) 部活動生集会				
7木	クラスマッチ(午後)				
8金	クラスマッチ(終日)				
9土					
10日					
11月	全校朝会 スクールカウンセリング 学校安全の日				
12火					
13水	3年進路講演会 45分授業				
14木					
15金					
16土	GTEC検定日				
17日					
18月	学年朝会 集団読書(1年)				
19火					
20水					
21木	耳鼻科検診(1年)				
22金					
23土	悠学講座① 3年小論文模試				
24日					
25月	全校朝会 スクールカウンセリング 1・2年実力考査時間割発表 保健講話				
26火	中掃除				
27水					
28木					
29金	学年会 45分7限授業				
30土	1~3年進研記述				
修学旅行前健康相談					

## 点はつながる ~今できることを信じて~

教頭 新留 克郎

“You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future. You have to trust in something — your gut, destiny, life, karma, whatever. This approach has never let me down, and it has made all the difference in my life.”

これはスティーブ・ジョブズが2005年にスタンフォード大学で講演を行った時の有名な言葉で、大好きな言葉だ。皆さんもよく知っているかもしれない。7、8年前だったのだろうか。ある英語の教科書に“Stay Hungry. Stay Foolish!”というタイトルのレッスンがあり、スティーブ・ジョブズの生き方・考え方が取り上げられていた。当時の生徒たちと一緒に、彼の人生観に触れ、この言葉の意味を学び、考えを伝え合った思い出がある。

ここでいうdotsとは、一つ一つの出来事や経験と捉えてもらえればいいと思う。「将来を見据えて、点をつなぐことはできない。振り返って初めて、点をつなぐことができるのだ。」という言葉は実に深い。

スティーブ・ジョブズは、かつてカリグラフィーを学んだことがあった。まだ将来の夢も持てずにいた頃、である。この時彼が、「カリグラフィーを学んだ経験」が後に開発することになるパーソナルコンピューターに革命を起こすことになるなんて、知るよしもなかったはずである。彼はコンピューターに革命を起こすためにカリグラフィーを学んでいたのではない。カリグラフィーを学んでいたことが、コンピューターの革命につながった、のである。皆さんもよくご存知の話だと思う。

自分自身のこれまでの人生、勿論だけれどもいろいろなことがあったし、様々なことを経験してきた。学生時代の勉強や部活動、アルバイトの経験、英語教師としての経験、先生方や生徒たちとの関わり、アメリカの現地小学校における日本語教師としての赴任・海外での生活、などなど。私は小学生時代から剣道をしている(今はサボりがちですが)。勿論、将来の夢を見据えて剣道を始めたわけじゃない。でも、教師になって、剣道を通して学んだことや経験は今の自分を支えてくれていると信じている。他の経験だってそうだ。過去の経験や出来事は、その時々で、振り返って見た時に役に立つことや参考になることが多いことに気付かされる。まさに、点はつながるのだ。

今、高校生活を送っている皆さんにとっても、「振り返ってみるとあの時の出来事や経験が今の自分のためになっているな。」ということがあるのではないだろうか。

長い人生の中で、人は様々な経験をする。それは楽しい、うれしいものばかりではないし、苦しい、きついものもある。「なんでこんなことしなきゃいけないの?」という経験もあるかもしれない。各教科の勉強、部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動、友人との付き合い、などなど高校生活は様々な経験や出来事であふれている。もしかしたら、今やっていることに、意味や価値を見いだせない時もあるかもしれない。でも、これから皆さんが切り開いていく自分の歴史の中で、それらはきつとつながってくる。将来、何がどのような形で役に立つかわからない。お互いに多くの“dots”を刻んでおきたいものである。

“You have to trust that the dots will somehow connect in your future.”

【研修報告書から(抜粋)】

・英語以上に自分の意見がなかなか出せなかった。もっと広い視野を持ちたい。  
 ・日本を俯瞰することで、当たり前だと思っていたことが実は貴重であることに気づいた。  
 ・コミュニケーションをとる際は、相手に伝えたいという思いが大切なのに気づきました。  
 ・言語は、いくら学んでも学び足りることは絶対にないと感じました。  
 ・人種や言語の壁を超えてお互いを理解しあえた経験は私の宝物です。  
 ・よく「自分の“comfort zone”から抜け出せ」と言われますが、それを実行することは容易ではないと知りました。しかし同時に、それを乗り越えた先には今まで見たことのないような景色が広がっていることも知りました。  
 ・大切なことは、英語ではなく、「挑戦しよう!」と思う積極性だと思ふ。間違えることを恐れず、前へ!前へ!とどんどん自分から主張していきたい。

この研修は、本校の創立百二十五周年を記念して平成二十九年より始まった事業です。目的は以下の通りです。

○将来の鹿児島県、日本、ひいては世界をリードする人材の育成を目指して、本校生徒に海外の高校生との交流を中心とした海外生活を体験させる。

○学習意欲に富み、知的好奇心の溢れる本校生徒たちが、机上ではなく実体験として文化や他国での生活を体験することで、一層の向学心を抱き、これからの世界をリードする人材としての素養および国際性を育む。

このような目的のもとで実施された、平成二十九年三月の研修に参加した生徒は、次のような感想を残してくれました。

### 平成三十一年度 短期海外研修について

地歴・公民科 蓮香 尚矢

これらの感想から、参加した生徒たちは、上記の目的を十分達成するとともに、「積極性を持つ」などといった、日本でも意識して生活すれば身につけられる資質こそが大切なことに気づいています。十六・十七年の人生では出会うことのなかった、異質なものと接することで、生徒たちの思考の幅が広がり、人間的にも成長させてくれたのでしよう。



PTA総会時に研修報告会が行われました。

また、本研修で派遣できる生徒は、現時点では十名という限られた人数です。しかし、この研修に応募する中で自分自身の長所は何かを見つめ直し、それを日本語や英語で表現することは、総合的な力を養うことにつながります。また、国際化が進む現代社会の中で、日常なかなか考えない海外での生活について思いを巡らせることは、今後の人生で必ず役立ちます。多くの生徒が、本研修に応募し、自分自身を磨くきっかけをつかんでくれることを期待します。

◎平成三十一年度「短期海外研修」主な日程等

・日程  
 平成三十一年三月三日(日)  
 三月十二日(火)  
 (予定)十日間  
 ※現在最終調整中

・研修先  
 アメリカ合衆国 ニューヨーク  
 ・滞在先  
 ホームステイ、ホテル  
 ・募集期間  
 平成三十年六月十一日(月)  
 平成三十年六月十五日(金)

### 鶴丸の未来を担う

生徒会長選挙・生徒総会

五月十六日、平成三十一年度前期生徒会長選挙及び前期生徒総会が行われました。生徒総会に先立って行われた立会演説会では、候補者の荻田匠君(21R)が昨年度後期生徒会副会長を務めた経験を通して得た学校及び生徒会活動に対する熱い思いを語り、その後行われた信任投票の選挙にて過半数を得、見事に新生生徒会長への就任が決定しました。

生徒総会では、活動報告・決算報告・予算案の審議に引き続き、第三号議案として「校則を見つめ直す」について話し合いがなされました。今回、特に校則の中の「袖まくりの禁止」について焦点を絞って議論するべき理由、残すべき理由について議論を深めながら、校則の本来あるべき姿についてまで考えを及ぼせ、鶴丸高校生徒の一員として真剣に議案と向き合いました。二・三年生に混じって一年生からも意見が多く出され、物怖じしない姿に頼もしさも感じました。一年生は初めて経験する鶴丸の生徒総会に大いに刺激を受けていました。



荻田匠君による演説の様子。

五月十八日、地震を想定した避難訓練が実施されました。今回、通常の避難訓練に加えて、津波警報の発令により二次避難も実施しました。知らされていないケースもありましたが、生徒の対応が的確で、ご指導いただいた西消防署の隊長さんからお褒めの言葉をいただきました。



二次避難も落ち着いて行動できました。